

発見!

ちょっと気になる

まちの人

備前太鼓を次の世代へ
継承したい



郷土芸能
伊奈備前太鼓保存会 会長

梅田 陽一さん

伊奈備前太鼓保存会とは

地元伊奈町を中心に、和太鼓、神楽の活動をしている団体です。地域に根付いた活動をし、郷土芸能である備前太鼓の活動を後世へと伝えています。

備前太鼓について

「伊奈備前太鼓」は伊奈の農民の働く一日の様子を表したもので、演奏を全年齢層で叩く珍しいスタイルの太鼓です。保存会のメンバーは40名程度で、下は小学1年生から上は70歳以上と幅広い世代で構成されています。さまざまな年代の人との練習を通して青少年の健全な育成を図っています。

メンバーは、備前太鼓に入会して間もない「学(まなび)」、小学生を対象とした「育(はぐくみ)」、太鼓の中心で、いわゆる出演部隊の「響(ひびき)」の3つのグループに分けられ、それぞれのグループの練習と、月1回の合同練習をしています。

公演について

出演は年間40回ほどで、老人ホームや結婚式等お祝いの場に呼ばれることも多いです。夏から秋にかけて特に忙しく、1日に複数回公演することもあります。

最大のイベントは伊奈まつり

1年で最も大きなイベントは伊奈まつりですね。当日は山車も出すので一週間前からその準備で大忙しです。野外なので天候ともならめっこですね(笑)メンバーも伊奈まつりに出演することを目標に日々練習をしています。

伝承したい神楽の奉納

春と秋に氷川神社の祭礼で神楽の奉納をします。かつては出店もあり、盛りあがっていたみたいですが、娯楽も増えて次第に縮小していったようです。氷川神社には立派な神楽殿もあるので、みなさんにも神楽も知っていただき、しっかり次の世代に継承していきたいですね。

太鼓を叩く喜びは見に来ていただいたお客さんの反応

演奏が終わって、みなさんから多くの拍手をい

ただけるのが何より嬉しいですね。練習の成果が発揮できてミスなく全員で一本の音になったときの達成感は格別です。

今後に向けて

若い世代を増やしたいですね。小学生のころは続けてくれても中学生になると部活動がメインになるので太鼓に來れなくなってしまってそのまま終わってしまうことが多くて…。今はいろんな習い事があるので、太鼓がその中でチョイスされないんですよ。太鼓の部活でもあればいいんですけどね(笑)

後継者育成という面で見ると、若いうちから太鼓をやっているのとそうでないのとでは上達が全然違うんですよ。伝統芸能の備前太鼓がしっかりと後世に受け継がれるように、後継者を育てていきたいですね。

梅田さんありがとうございました。町の伝統芸能を継承している備前太鼓保存会。小学生は月500円で入会できるので、興味をもった方はまずは見学に行ってみてはいかがでしょうか。



- 1 全セクション合同の練習。月に1回実施し、練習を通して交流を深めています。
- 2 前に出て叩く「乱れ打ち」。楽譜が無いので2人で呼吸を合わせてリズムを奏でます。
- 3 11月23日に行われた氷川神社の秋の祭礼での神楽の奉納。衣装はみなさんの手作りだそうです。



今月から「広報いな」をリニューアルいたしました。これを契機に私のコラム「清(きよし)の一言(ひとこと)」をスタートさせていただきます。これから毎号、皆様に町政への私の思いをお伝えして

いきたいと思います。

コラムの第1回目としては、やはりこの人物を語らないわけにはいきません。伊奈町の町名の由来となった伊奈備前守忠次公。本能寺の変の後、徳川家康に仕え、家康の関東入国とともに代官頭として伊奈町の丸山に陣屋を構え、治水や新田開発、検地などを行ったほか、領民の生活の向上にも努めました。戦国から太平の世に移りゆく時代に生き、現代につながる関東一円の発展に尽力した忠次公をはじめとするその子孫の功績は、計り

知れないものがあります。この忠次公を顕彰し、忠次公ゆかりの町づくりを進めることが、以前からの私の夢でした。

現在、町・観光協会・商工会・地域の住民の皆様などからなる「忠次プロジェクト推進協議会」が発足し、国の地方創生推進交付金を活用して忠次公を観光資源として活かしたまちづくりを進めています。伊奈氏屋敷跡を中心とするエリアの散策路整備のイベント開催や講演会の実施、各種特産品の開発などを行っています。

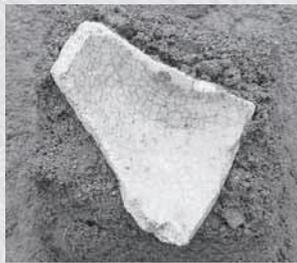
長い間、眠っていた伊奈氏屋敷跡という歴史的な資産とその魅力が、今、動き始めています。より多くの方にこのプロジェクトを通じて伊奈町の魅力を来て、見て、知っていただきたいと思えます。町民の皆様とともに「観光都市・伊奈町」を作り上げていく所存ですので、これからもどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

伊奈町 歴史を巡る旅

～伊奈氏屋敷跡と発掘調査～

伊奈氏屋敷跡は、伊奈町の名前の由来となっている伊奈備前守忠次が陣屋を築いた場所です。忠次は、徳川家康の関東入国に伴い、鴻巣・小室で1万石(1万3千石とも)を与えられ、陣屋を築きました。この陣屋を拠点に、関八州の治水や新田開発、東海道の整備等の農政を中心とした多岐にわたる事業で貢献し、江戸幕府の基礎を作りました。

二の丸と呼ばれている場所において、平成29年11月から約3か月間にわたり発掘調査を行いました。発掘調査の結果、西暦1600年前後(中世～近世にかけての時期)の陶器片が多数出土しました。この時期の陶器片が東日本で見つかることは少なく、当時の歴史を語る上で大変貴重な発見となりました。また、12月16日に、発掘調査現場説明会を開催したところ、約200人の方々には足を運びいただき、実際の発掘調査現場を見ていただきました。説明会に続いて行った史跡めぐりツアーでは、平成29年2月から整備している散策路を歩き、当時のまま残る土塁や堀を見学しました。



陶器片

今後も歴史的に重要な伊奈町の文化財である「伊奈氏屋敷跡」を、地域の方々と整備・活用して現代の生活の中に活かしつつ、未来に継承していきけるようしっかりと保存していきます。



発掘調査現場説明会

問 生涯学習課 2543

ありがとうございました



- ♥(株)ノジマから「防災セット」2個、「ポケットラジオ」5個、「シュレッター」2台、「オーブントースター」2台、「ロボットクリーナー」2台、「小型LEDライト」9個、「LEDライト」4個を町政の進展に役立ててほしいとご寄付がありました。有効に活用させていただきます。
- ♥伊奈町自然に親しむ会から3,580円を緑地の保全と緑化の推進に役立ててほしいとご寄付がありました。寄付金は緑の基金に積み立て、緑地の保全と緑化の推進に関する事業に有効に活用させていただきます。
- ♥伊奈山野草愛好会から1,732円、伊奈町くらしの会から4千円、伊奈町菊花同好会から3千円、丸山区自治会から1万円、伊奈陶芸クラブ連盟南支部から15,000円、伊奈中学校PTAから3千円、上尾遊技業組合から10万円、斎藤製作所から15,497円、埼玉県立伊奈学園総合高等学校生活科学系から車イス3台、真下広氏から1万円を社会福祉のために、役立ててほしいとご寄付がありました。社会福祉協議会で有効に活用させていただきます。